

札幌市 2022 年第 1 回定例市議会 (2 月 15 日～3 月 30 日)

石川 佐和子

第 1 部 予算特別委員会 (財政局、総務局、環境局、まちづくり政策局、教育委員会、市民文化局、子ども未来局)	
質 問 (石川 佐和子)	答 弁
<p>1. 財政運営に関する市民との情報共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が主体的にまちづくりに参加するためには、札幌市の財政状況についての情報共有が重要である。「さっぽろのおサイフ」については、アンケート結果を生かし、今後どのように活用していくのか。 <p>2. 行政評価制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政評価制度は自治基本条例に基づく市民への説明責任ツールだ。見直しに当たっては、市民自治の観点での市民参加や情報発信の取り組みが重要と考えるがいかがか。 行政評価制度の意義について、職員の理解向上を促すためどのように取り組むのか。 <p>3. コロナ禍における2R推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染対策としての外出自粛等により外食が減少し、家庭での食事が増えたことなどから、2020年度の一人1日当たりの廃棄ごみ量は399gと3%程度増加している。市民のごみ減量・資源化に関する理解を深めるため、ごみ処理や資源化施設の見学が効果的だが、コロナ禍を踏まえ、どのように取り組むのか。 <p>4. 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの策定における子どもの意見の反映について</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくり戦略ビジョンの子ども向けパブリックコメントであるキッズコメントを行うに当たって、子どもから寄せられた意見がビジョン案に反映されていることが伝わるように書き込むべきだが、どのように取り組むのか。 第2次のまちづくり戦略ビジョンにおいても、中学3年生向けの副読本「10年後の札幌はどうなるの？」を作成し、まちづくりに関心を持つことが出来るように取り組むべきだが、いかがか。 <p>5. 学校給食食器の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチック樹脂製の食器の安全性については、新たな札幌市仕様の井についての市独自の検査、また耐用年数近くまで使用した場合を想定した検査も行う必要があると考えるが、どのように取り組むのか。 プラスチック樹脂製の井を導入した場合、その後、その他の食器についてプラスチック樹脂に変更していく考えなのか伺う。 <p>6. さっぽろ読書・図書館プラン 2022 について</p> <ul style="list-style-type: none"> プランでは「電子書籍サービスの推進」が挙げられているが、情報化が進む中であっても、子どもたちの読書のきっかけとなる「本」は、温かみが伝わる紙の本も重要。図書館は、市民の様々な学びを深めるために、電子書籍サービスに偏り過ぎないように、紙の本とデジタル本の両方の長を生かした取り組みをすすめ、また、市民に発信したりすべきと考えるが、いかがか。 <p>7. 客引き行為等の防止に関する条例案について</p> <ul style="list-style-type: none"> 条例制定後は、対象地域を指導員が巡回することになるが、度重なる指導等にも拘わらず、違反を繰り返したうえで、過料を支払ってでも、客引き行為等を繰り返すようなケースに対して、どのように対応していくのか。 <p>8. アイヌ文化交流センターの機能の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌ文化は、アイヌが生活してきた営みそのもの全てであり、アイヌを理解するため、食文化を知ることは、大変効果的な取り組みと考える。アイヌの食文化の発信についての、これまでと今後の取り組みについて伺う。 <p>9. 家庭訪問型子育て支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問型子育て支援事業は、既存の子育てサロンの利用に踏み切れず孤立しがちな子育て世帯に友人のように寄り添う支援であり重要である。2022 年 1 月から事業を実施しているが、これまでの成果や課題について伺う。 	<p>1.</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度においては、アンケート調査の結果を踏まえた改善策として、年度当初に小学 6 年生全員を対象にパンフレットを配布するとともに、授業の準備にかかる教員の負担を軽減できるよう図やイラストを切り出した素材データをホームページ上に掲載したいと考えている。さらには、札幌市の財政状況について、将来を担う若い世代に関心を持っていただけるよう、コロナ禍の状況を勘案しながら、出前講座の実施などを検討していきたい。 <p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> 見直しの検討過程においては、行政評価委員から、調書の分量が多く、論理が飛躍している記載が散見され、市民にとって分かりづらいつらいつらといった意見も出されたところ。また、評価調書は、ホームページで公表しているが、市民からのアクセスも少なく、関心を持ちにくいといった課題もあると受け止めている。今後の評価制度の見直しに当たっては、市民自治の観点を重視し、より市民に関心を持ってもらいやすい内容、公表方法とするなど検討を進めていきたい。 今後、職員においては、多様化、高度化する行政需要に的確に対応する論理的な政策形成能力が、また、管理職においては、限られた経営資源の最適化を図る経営マネジメント能力が益々重要になる。評価制度の意義や、見直しの検討過程を職員に共有するほか、定期的に職員の政策立案や評価に係る研修を開催するなど、職員の理解促進を十分行っていく。 <p>3.</p> <ul style="list-style-type: none"> 清掃工場や資源選別センターにおいて施設見学を行っているが、コロナ禍では、感染状況によって、施設訪問による見学が難しい状況にあった。コロナの収束後は、施設訪問を再開することになるが、施設を訪問しなくても、市民がごみ処理や資源化の現状を知ることができるよう、市のホームページなどを活用して、広く発信していきたい。 <p>4.</p> <ul style="list-style-type: none"> キッズコメントについては、小学生及び中学生を具体的な対象と考えており、教育委員会等の意見も聞きながら、冊子のレイアウトや表現を工夫し、小中学生にわかりやすいものとした。また、意見表明の参考や動機付けのため、これまで行ったワークショップ、出前講座等で子どもから出た意見が、ビジョン編の素案において、どのように表現されているか、記載することも検討していきたい。 第 2 章において「札幌市の現在と将来に関する考察」をまとめている「ビジョン編」の内容が固まった後に、前回と同様、教育委員会や学校現場の方の協力を求め、現行のカリキュラムやキッズコメントの結果等も踏まえながら、わかりやすく、かつ活用しやすい副読本等の作成を検討していきたい。 <p>5.</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入に当たっては、容量や重量、また形状など本市仕様の規格に適合しているか、また食品衛生法に基づく安全性についても、専門の検査機関にて事前に確認する予定であり、導入後については必要に応じて検討していく。 今後も学校給食運営委員会からの答申を踏まえ、引き続き学校給食における食器の改善に取り組んでいきたい。 <p>6.</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌市の電子書籍貸出サービスは、令和 2 年以降、コロナ禍の影響もあり、利用が拡大している状況。電子書籍は、来館が不要であることに加え、文字の拡大や音声読み上げができるなど多くの長所があり、今後も利用者の拡大が見込まれることから、重点施策の一つに取り上げているところ。こうしたことも踏まえ、今後も、市民の読書活動推進の効果的な支援につながるよう、行事や展示といった取り組みなどを通じて、紙の本と電子書籍、それぞれの特長を生かした利用を呼びかけていく。 <p>7.</p> <ul style="list-style-type: none"> 根気強く指導等を行っていくことが必要と考えており、行為者はもとより客引き行為等を行わせている事業者にも並行して、指導等を行っていくことが、再発を防ぐために必要と考えている。これに加え、違反行為の公表をした時には、事業に利用されている土地や建物の所有者又は管理者に対し、公表内容を通知し、禁止行為の中止に向けた働きかけを行ってもらうなど、様々な手法を用いて違反を繰り返させないための取り組みを進めていきたい。 <p>8.</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで、アイヌ文化交流センターにおける食関連の展示や、イベントでのアイヌ料理の提供を行ってきた。また、市内中心部における調理体験講座や、市内のカフェと協働したアイヌ料理の試食会など、アイヌの食文化に触れてもらうための様々な取り組みを行ってきた。今後は、さらに、アイヌ文化交流センターにおける中庭を中心とした展示の充実のほか、アイヌの食文化を紹介する映像コンテンツを制作し、地下鉄さっぽろ駅構内のアイヌ文化を発信する空間ミナパなどの関連施設での活用や、You Tube を用いた配信も行っていく。 <p>9.</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業を知るきっかけを尋ねたところ、広報さっぽろや地域のフリーマガジンなどであり、普段子育てサロンを利用していない方々の、新たなニーズの掘り起こしにつながっていると考えられる。現時点では、今後利用者が増えた場合、訪問するボランティアが 3 名では円滑に訪問できないことが危惧されることから、協力いただくボランティアの人数を増やすことが課題である。また、利用者について、本事業を終了後も、子育てサロンや子育て支援制度の利用などにつなげていくことが課題と認識している。